



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創刊の辞
Author(s)	逸見, 勝亮
Citation	北海道大学大学文書館年報, 1, 1-1
Issue Date	2006-02-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43365
Type	other
File Information	1_1.pdf



創刊の辞

北海道大学大学文書館長 逸見勝亮

北海道大学大学文書館は、北海道大学創基125周年記念事業の一環として、『北大の125年』、『写真集北大125年』、『北大百二十五年史』を編纂した北海道大学125年史編集室を継承して、2005年5月1日に発足した。

当大学文書館の責務は、杓子定規に記すなら「本学の保存期間が満了した法人文書及び本学の歴史に係る各種資料の収集、整理、保存、調査研究等を行い、閲覧、公開等の利用に供すること」（北海道大学大学文書館規程）にある。有り体に記せば、①大学事務局・各部局から公文書・各種記録を集め、それらを選別して廃棄し保存すること、②公的諸機関・個人所蔵にかかわる北大関係史料を収集すること、③『札幌農学校史料』（1981年）に続く、『北海道帝国大学・北海道大学史料』とも呼ぶべき史料を収集すること、④北海道大学の歴史と史料に関する基礎的研究を推進すること、となろう。

当大学文書館にとって目下の課題は、保存期限満了法人文書の移管・廃棄・保存の手続きを定めることであるが、既に農学部・旧演習林所蔵公文書の目録を作成して、一部を文書館へ移送して、簿冊毎に件名の整理作業が進捗中である。農場・理学部所蔵公文書の目録も作成中である。それらには北海道大学の歴史にとって看過できない樺太演習林の記録も含まれていて、興奮を抑えがたい。40年ほど前に、島恭彦「帝国大学特別会計と演習林」（『経済論叢』第94巻第5号、1964年11月）を読んで以来、脳裏から離れたことはなかった北海道帝国大学の植民地演習林を、当大学文書館が照射しつつある。

また別に、附属図書館所蔵史料・理学部所蔵史料・当事者からの聴き取り調査などを通じて、北海道大学理学部が正規学生として女性に入学を認めた経緯と背景、1930～45年に理学部に入学した女性たち23人の、入学前の学歴・志願の経緯・卒業後の閱歴を調査している。この調査は、従来の帝国大学と女性入学者の歴史を書き換えるものとなるはずである。

保管場所の確保をはじめ、何もかもが途上にあるが、いずれの調査も当大学文書館設置をみたからこそ達成可能であったことを誇っている。

『年報』の責務は、当然にも史料調査の結果、基礎的研究の成果、活動記録を定期的に発信することとなる。

正規職員は助手1名、事務補助員1名、アルバイト2名に過ぎぬ「日本一小さな」大学文書館と『年報』は、北海道大学の自己点検評価の重要な一翼を担うとともに、北海道大学とかかわりを有する人々との、新しいかかわりの糸を紡ぐ。